

天位	
実玫瑰つぎつぎ灯る岬かな	(札幌市 藤林 正則)
地位	
雪形の馬も嘶く岬かな	(新得町 中島 土方)
霧去りて風の岬となりにけり	(広尾町 伊藤 貞子)
いしかりの岬埋めたる黄水仙	(むかわ町 宮脇 木脩)
青嵐驟なせる岬の草	(常呂町 笠井 操)
春霞一湾の岬浮かせけり	(せたな町 用名 ハル)
人位	
ふるさとの岬のうえの天の川	(東京都 野村 信廣)
長閑さや鳶の輪二つめぐる岬	(小樽市 村上 千代)
流木に釣瓶落しの波の音	(小樽市 村上 千代)
大漁旗なびく岬の村祭り	(福島町 藪内 峽泉)
新聞にくるまれ鮭の届きけり	(釧路市 高杉 杜詩花)
岬までつづく起伏や雲の峰	(札幌市 伊藤 哲)
積丹の岬へいざなふ蝦夷きすげ	(札幌市 平森 誠)
音もなく卵浪が洗う岬かな	(浜頓別町 綱淵 俊子)
麗らかや岬巡りの手漕舟	(倶知安町 中野 彰一)
海鳴りの岬に濡れし浜昼顔	(静岡県 二藤 覚)
地下室にねむるガリ版多喜二の忌	(旭川市 杉野 秋耕死)
灯台は男の白さ夏岬	(蘭越町 石坂 寿鳳)
虫干しや父青雲の日の鞆	(蘭越町 石坂 寿鳳)
大虹を帆に孕ませて雄冬岬	(日高町 遠藤 孝明)
夏立ちて若者集ふ宗谷岬	(稚内市 静間 典子)
佳作	
あざらしやえりも岬の春光る	(新冠町 大野 秀夫)
妻と来て岬の春を見下るせり	(新冠町 大野 秀夫)
一の岬二の岬越えて鳥帰る	(小樽市 大場 ちさ)
風光る自転車旅行日和かな	(小樽市 大場 ちさ)
涼新た水琴窟の音もまた	(倶知安町 中野 彰一)
いしかりの岬に雪の駿馬生れ	(石狩市 小泉 澄子)
烏賊釣りの岬を過ぎる灯かな	(石狩市 後藤 昭子)
積丹の岬に黄砂まっすぐ来	(石狩市 笠原 泰江)
海鼠突くことにも慣れて身ごもりぬ	(旭川市 杉野 秋耕死)
玫瑰の棘に追はるる岬径	(登別市 寺島 きしを)
帰港地の岬の虹に迎へらる	(日高町 遠藤 孝明)
夏至の鳶岬の空をみがきあぐ	(洞爺湖町 矢野 知子)
大西日地球岬の鐘鳴らす	(洞爺湖町 矢野 知子)
岬暮れ空にとけゆく雁のこゑ	(札幌市 柴田 襄子)
八十神の植田に宿す月置けり	(福島町 葉山 彰)
鍬の柄に凭れてあたり春夕焼	(余市町 横村 楓葉)
サハリンを指呼に岬の林蔵碑	(浜頓別町 高木 清風)
夕焼の岬の海に領土浮く	(北見市 田中 美津子)
時化続く岬の風読む懐手	(札幌市 今谷 みつる)
屯して沢水すする春の鹿	(訓子府町 小林 昭子)
【選者】	
小西 龍馬 氏 (北海道俳句協会顧問)	
横山 いさを 氏 (俳誌「縦」主宰)	